

雅ねえの、みんなで取り組む

# 獣害対策講座 Vol.13

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

こんにちは、雅ねえだよ

今、3月3日、あわてて4月号の原稿書き始めた(締め切りは3月1日だと思っ)。この季節になると、あちこちの県や市町村から新年度の獣害対策研修の打診、打ち合わせの電話や講演依頼ひっきりなし。でも、一元さんのイベントでの講演依頼はその場でお断り。

理由は、いかに人を集めてお金かけてその日だけ盛大にやったって、「行政もやってる」的な実績づくりには過ぎないから。

派手にイベントをやっても、そのあと担当者が現場に通うわけでもない、聴いた住民も何も今までとやること変わらない。それが被害防止や集落の元気につながることはまったくと言っていいほどないのよね。

エッ、また電話、アツ大崎町の役場から。

愚痴ってる場合じゃない、きつと前向きな楽しい話ね：

「はい、はい、ええーっと、過激な話とか、同じ話の繰り返しになってもいいならひきうけまーす」って即答。

なんの電話かと思ったら本誌『広報おおさき』新年度も連載執筆のお願い。

「読んだよ」って言うてくれる人、「講習会で話聞いてから読んで復習した」とか、「記事読んでうちの畑のこと言われてるのかと冷や汗かいた」とか「広報の原稿も講習会と同じようにも、もっと過激な毒舌でもいい」なんていろんな感想、意見聞けるのも楽しい。

で、今年度も書くから、アツ、また同じこと言ってるなんて思わないで付き合い合ってくださいな。

ざっと昨年度のおさらい

1年分。とにかく、頭を切り替えること。

「悪いのはドーブツ」って固定観念をまず捨てる。

なぜなら、ドーブツは何万年も前から何も変わってない。

ただ「安心して食える所に住みたい」だけ。

イノシシが田んぼ荒らした、シカが野菜食ったっていうのはあなたがドーブツに、「ここは安心して食える餌場、このへんに住もうって思わせただけ」。

農林振興課 林務水産係から

昨年4月から連載した本講座は、野生鳥獣や鳥獣害の情報を伝達する手段として、この広報誌を活用した新企画でした。文面のとおり、町内外の方々から様々な反響がありました。有害鳥獣対策は、被害を受けた方や地域が主役となり、学習し対策を講じることの重要性を理解いただき、地域環境の整備や侵入防止の電気柵導入が進んできました。雅ねえにはご多忙の中、今年度の執筆も快くお引き受けいただき感謝申し上げます。

これを餌付けって言う。

悪いのはドーブツじゃなくて餌付けした自分、だから対策は餌付けやめるだけ。

カキやビワなっているのに採らなけりやそりやドーブツ来るって。

秋に刈払い機なんか使えば冬に青草茂るし、囲いもしないで牧草作付けりやイノシシもシカも増えるって。

ならせた果樹は全部採る、採らない果樹は切る、余計な草刈りやめて冬は枯野の冬景色で兵糧攻め、山ぎわの採草地はしっかり守る。

柵は侵入防止柵ではなく餌付け防止柵にする。

餌付け防止柵(効く柵)と侵入防止柵(逆にドーブツ寄せ

る柵)の違いは、稲刈り済んだあとこそしっかり囲うってわかってるかどうかが、柵の外回りを歩けない柵ってドーブツ喜ばせるだけって知ってるかどうかとといったバツカみたいなことなのに。

あまりにも簡単なことばかり過ぎて「もっとしっかり捕獲しろ」とか「行政が大規模な(管理もできない)柵作れ」って叫んでる人置いてけぼりにして自分たちでさっさと被害止めて前より元気になった人や集落あちこちでいっぱい誕生してる。

アツ、みんな笑顔で対策始めた大崎町の曲集落も紹介してるからね。まあ、ざっとこんな感じで